

2003年10月号
No.408

りゅうぎん調査 2003年10月号

Bank of the Ryukyus'
Okinawan Economic Review

No.408



琉球銀行経済調査室
www.ryugin.co.jp

県内の景気動向

概況（8月）

景気は、持ち直しの動き強まる

観光関連では、入域観光客数が引き続き前年を上回る

消費関連では、電気製品卸売が引き続き前年を上回る

8月の県内景気をみると、消費関連では、百貨店売上高は引き続き前年を下回り、スーパー売上高（既存店）も前年割れに転じたものの、新車販売は2カ月連続で前年を上回り、電気製品卸売も猛暑効果の持続により2カ月連続で前年を上回った。建設関連では、主要建設会社の受注額は2カ月連続で前年を下回ったものの、公共工事請負額が再び前年を上回り、建設資材出荷・売上では鋼材が引き続き前年を上回った。観光関連では、入域観光客数は国内客が引き続き好調に推移し、主要ホテルの稼働率、売上高ともに前年を上回った。主要観光施設入場者数は新水族館の押し上げ効果の持続により12カ月連続で前年を上回った。

総じてみると、消費関連では概ね堅調に推移し、観光関連では国内客が好調に推移し、建設関連には持ち直しの動きがみられることから、県内景気は、持ち直しの動きが強まっている。

消費関連

百貨店売上高は、台風による天候不順や他業態との競争などにより11カ月連続で前年を下回った。スーパー売上高（既存店）は、猛暑需要などから客数は増加したものの競合による単価下落から僅かながら前年を下回った。新車販売は、前年のタクシー緊急調整地域指定前の駆け込みの反動から小型乗用車は減少したものの軽乗用車が引き続き増加したことから、全体では2カ月連続で前年を上回った。電気製品卸売は、前月に引き続き猛暑効果によりエアコンが増加したことから2カ月連続で前年を上回った。

建設関連

公共工事請負額は「国」の発注工事は減少したものの「市町村」、「県」が増加したことから再び前年を上回った。県内主要建設会社の受注額は、公共工事は増加したものの民間工事が引き続き減少したことから2カ月連続で前年を下回った。建設資材出荷・売上では、セメント、生コン、建材が減少に転じたものの鋼材は引き続き前年を上回った。

観光関連

入域観光客数は、路線拡充やSARSによる海外旅行の切り換え需要などから国内客が好調に推移したことから2カ月連続で前年を上回った。県内主要ホテルは、海外からの振替え客やファミリー客が増加し稼働率、売上高ともに前年を上回った。主要観光施設入場者数は、新水族館の押し上げ効果の持続により12カ月連続で前年を上回った。ゴルフ場は、県外客は増加したものの県内客が天候不順により減少したことから、全体では入場者数、売上高とも再び減少した。

雇用関連

新規求人数（7月）は前年同月比21.3%増と1年1カ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（7月、季調値）は前月と同水準となった。完全失業率は7.3%で前年同月より1.1ポイント改善した。

その他

消費者物価（7月、総合）は上昇を続けている保健医療、教育に加え交通通信および諸経費が増加に転じたものの、食料品が減少幅を広げたことなどから全体では3カ月連続で前年を下回った。企業倒産は、件数が13件で前年同月を6件上回り、負債総額は大型倒産の発生などから前年を大幅に上回った。

りゅうぎん調査(2003年8月)

増減率(%)

	前年同月比	前年同期比 (2003.6 - 2003.8)
1.消費関連		
(1)百貨店(金額)	9.6	5.6
(2)スーパー(既存店)(金額)	0.5	0.9
(3)新車販売(台数)	2.3	5.4
(4)電気製品卸売(金額)	3.6	6.7
2.建設関連		
(1)公共工事請負額(金額)	14.4	6.7
(2)建築着工床面積(m ²)	(7月) 74.6	(5-7月) 49.7
(3)新設住宅着工戸数(戸)	(7月) 21.0	(5-7月) 15.5
(4)建設受注額(金額)	20.8	11.0
(5)セメント(トン数)	8.3	0.2
(6)生コン(m ³)	8.1	0.8
(7)鋼材(金額)	31.3	19.3
(8)建材(金額)	16.6	4.0
3.観光関連		
(1)入域観光客数(人数)	5.1	5.9
(2)県内主要ホテル稼働率	(前年同月差) 1.7 (実数) 90.0	(前年同期差) 2.7 (実数) 81.8
(3) " 売上高(金額)	4.3	4.6
(4)観光施設入場者数(人数)	65.0	41.1
(5)ゴルフ場入場者数(人数)	3.8	3.4
(6) " 売上高(金額)	6.5	1.1
4.その他		
(1)県内新規求人数(人数)	(7月) 21.3	(5-7月) 27.8
(2)有効求人倍率(季調値)	(7月)(実数) 0.35	(5-7月)(実数) 0.34
(3)消費者物価指数(総合)	(7月) 0.4	(5-7月) 0.4
(4)企業倒産件数(件数)	(前年同月差) 6	(前年同期差) 1.7
(5)電力使用量(百万Kw)	(7月) 1.8	(5-7月) 0.4
(6)広告収入(県内マスコミ)(金額)	(7月) 1.8	(5-7月) 1.5

(注1) 公共工事請負額は西日本建設業保証株式会社沖縄支店調べ。建築着工床面積、新設住宅着工戸数は国土交通省調べ。入域観光客数、県内新規求人数、有効求人倍率、消費者物価指数は沖縄県調べ。企業倒産件数は東京商工リサーチ沖縄支店調べ。Pは速報値。

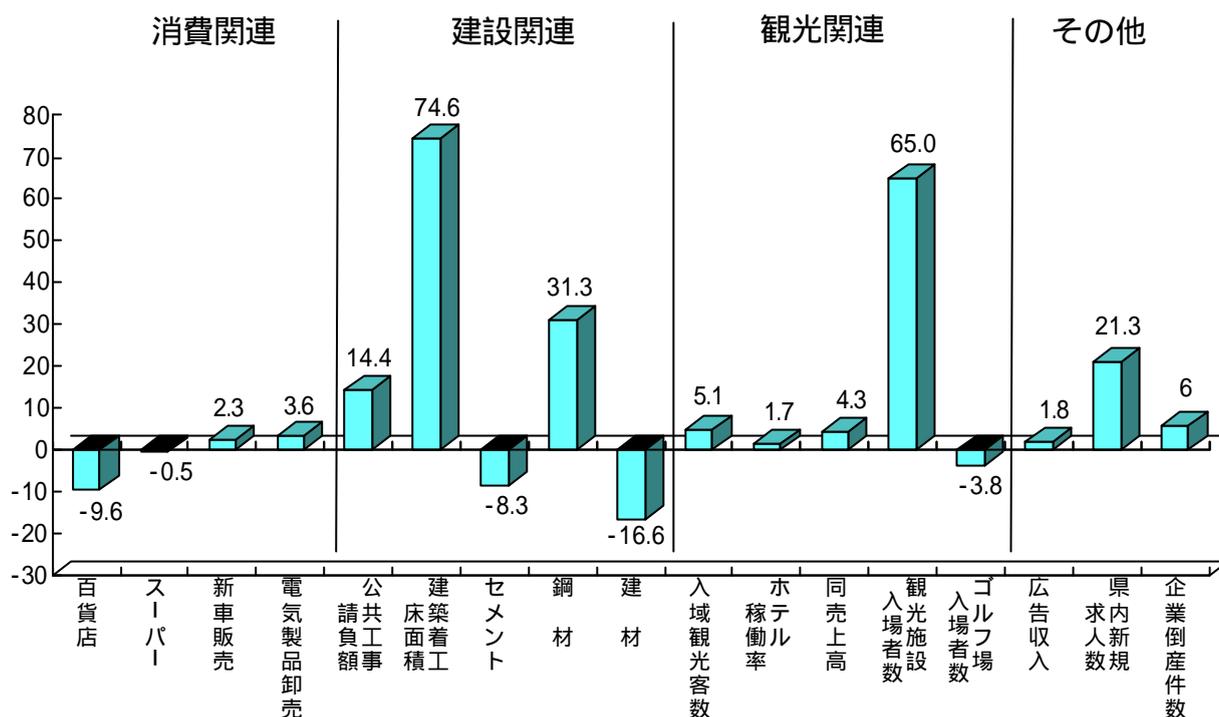
(注2) 企業倒産件数の前年同期差は、月平均件数の前年同期差。

(注3) ホテルは、2002年9月より調査先を19ホテルから18ホテルとした。

(注4) 鋼材、建材は2003年4月より一部データの見直しを行った。

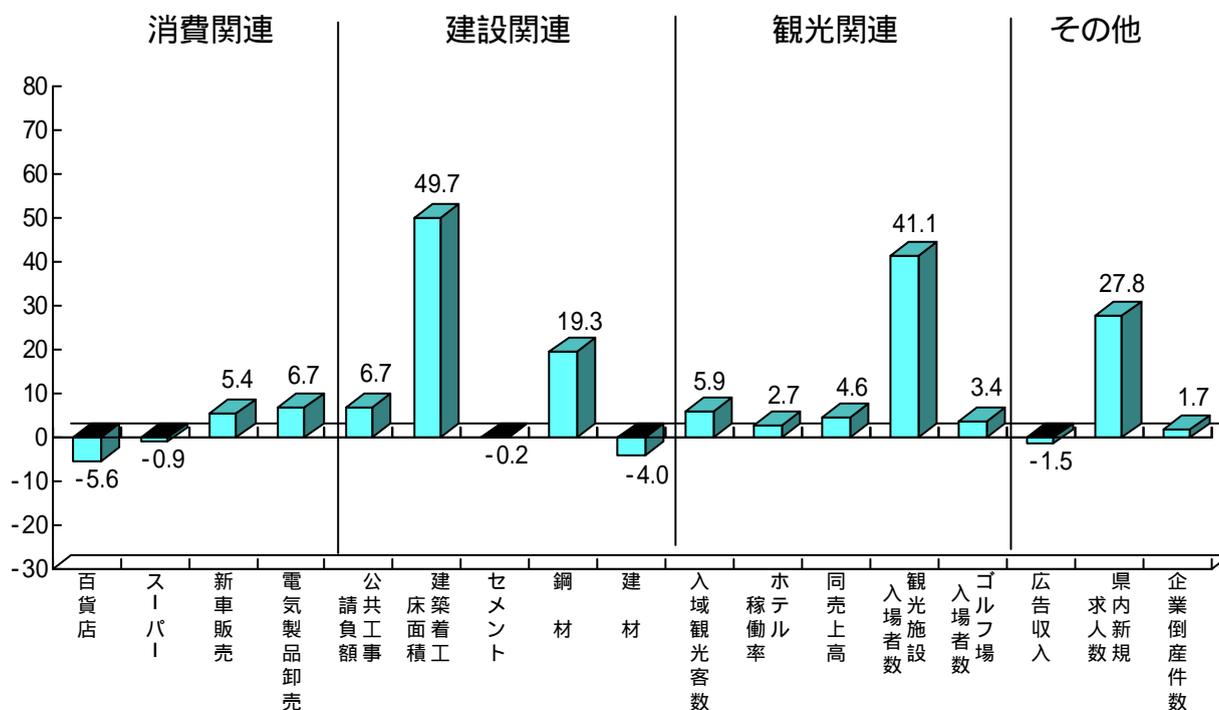
(注5) 観光施設は、2003年8月より調査先を6施設から5施設とした。

りゅうぎん調査 (2003年08月)



(注) 建築着工床面積、広告収入、県内新規求人数は7月分。数値は前年比(%)。
 ホテル稼働率(%ポイント)、企業倒産件数(件)は前年差。

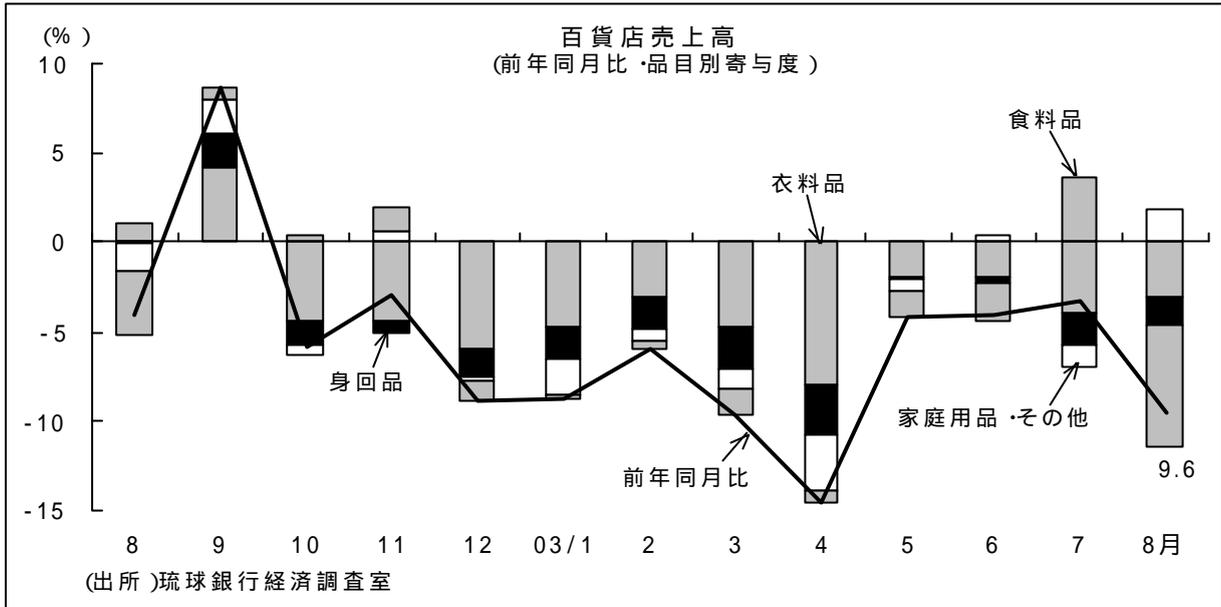
りゅうぎん調査 (2003年06月～2003年08月)



(注) 建築着工床面積、広告収入、県内新規求人数は5～7月分。数値は前年比(%)。
 ホテル稼働率(%ポイント)は前年差。企業倒産件数(件)は月平均の前年差。

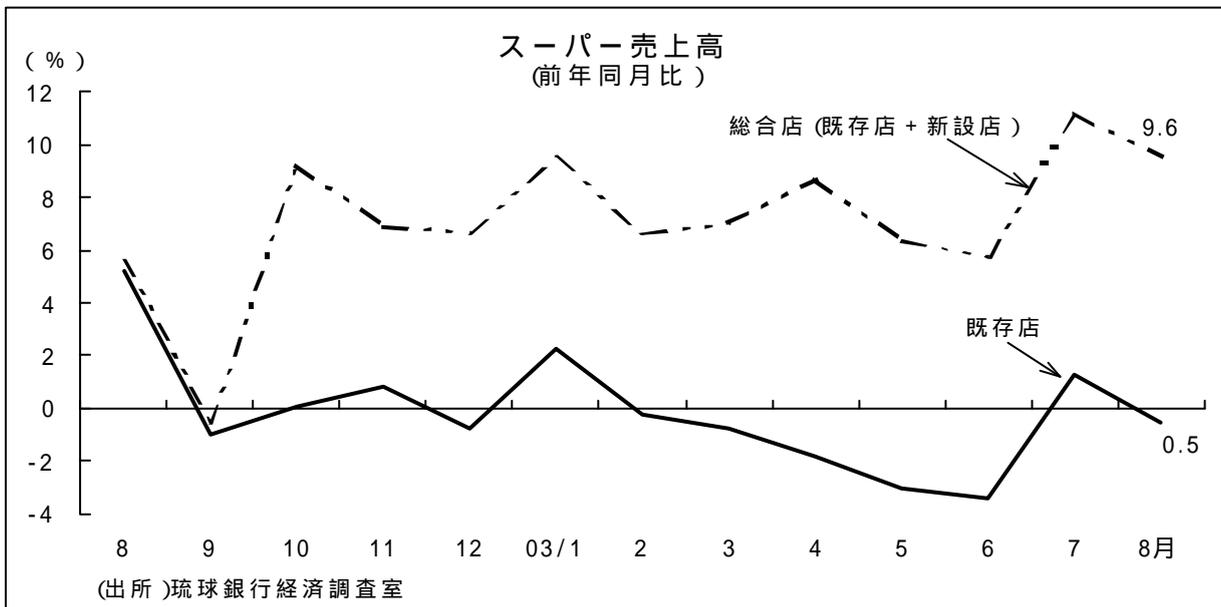
1. 消費関連

(1) 百貨店売上高：11カ月連続で前年を下回る



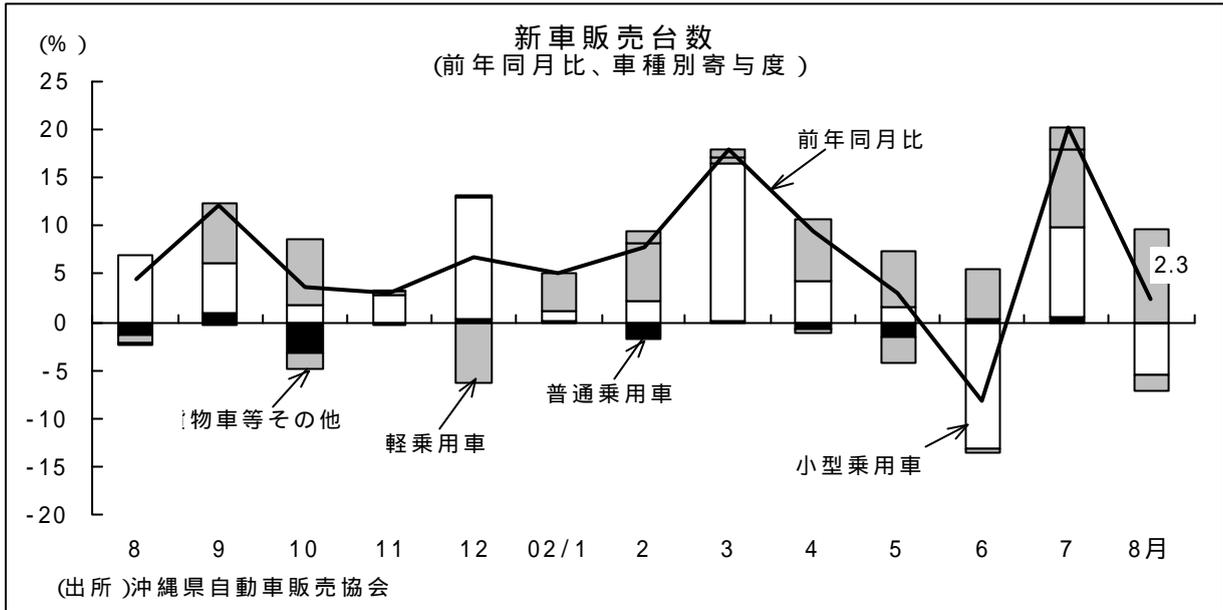
- 百貨店売上高は、台風による営業日数の減少や他業態との競争により前年同月比 9.6%減と 11カ月連続で前年を下回った。
- 品目別にみると、食料品（同 21.0%減）は旧盆の時期が前年に比べ早く中元商戦が7月に前ずれした反動から大幅に減少した。家庭用品（同 46.2%増）は増加したものの、衣料品（同 8.2%減）や身の回り品（同 14.6%減）は振るわなかった。

(2) スーパー売上高：総合店ベースは 11カ月連続で前年を上回る



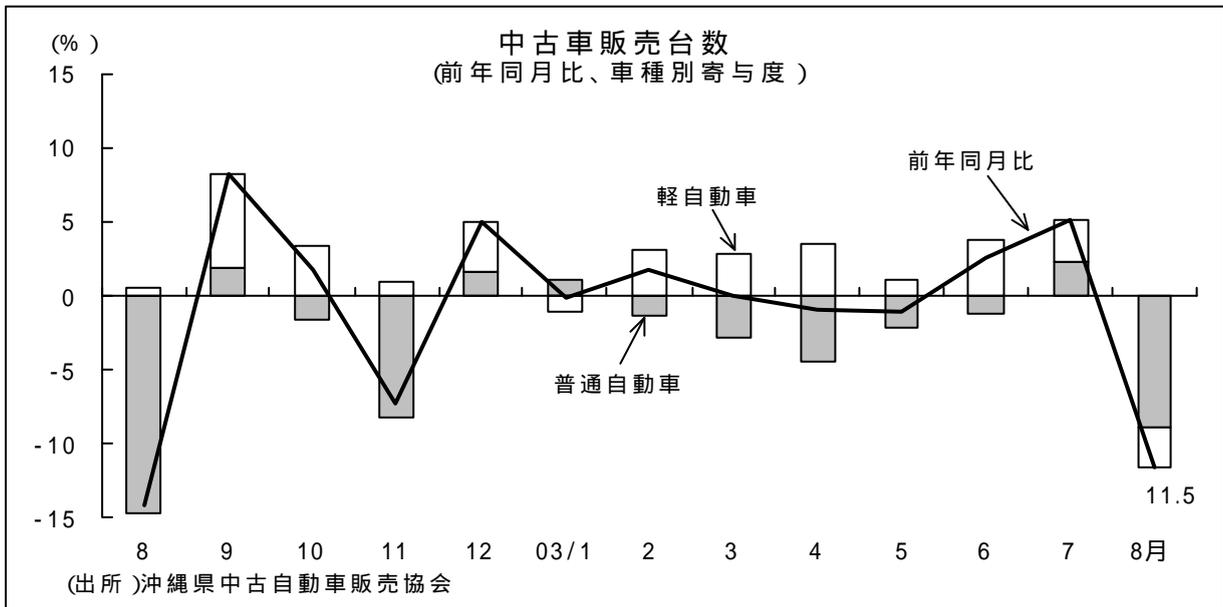
- スーパー売上高（既存店ベース）は、前年同月比 0.5%減と再び減少した。
- 内訳をみると、食料品は気温が前年より高目に推移し前月に引き続き猛暑需要がみられたことから客数は前年を上回ったものの、競合による単価下落や台風の影響により前年と同水準となった。衣料品は前年を下回った。
- スーパー売上高（総合店ベース）は、同 9.6%の増加となり、新設店効果の持続により 11カ月連続で前年を上回った。
- 百貨店とスーパーの売上高合計（既存店ベース）は、同 1.5%減と再び前年を下回った。

(3) 新車販売：2カ月連続で前年を上回る



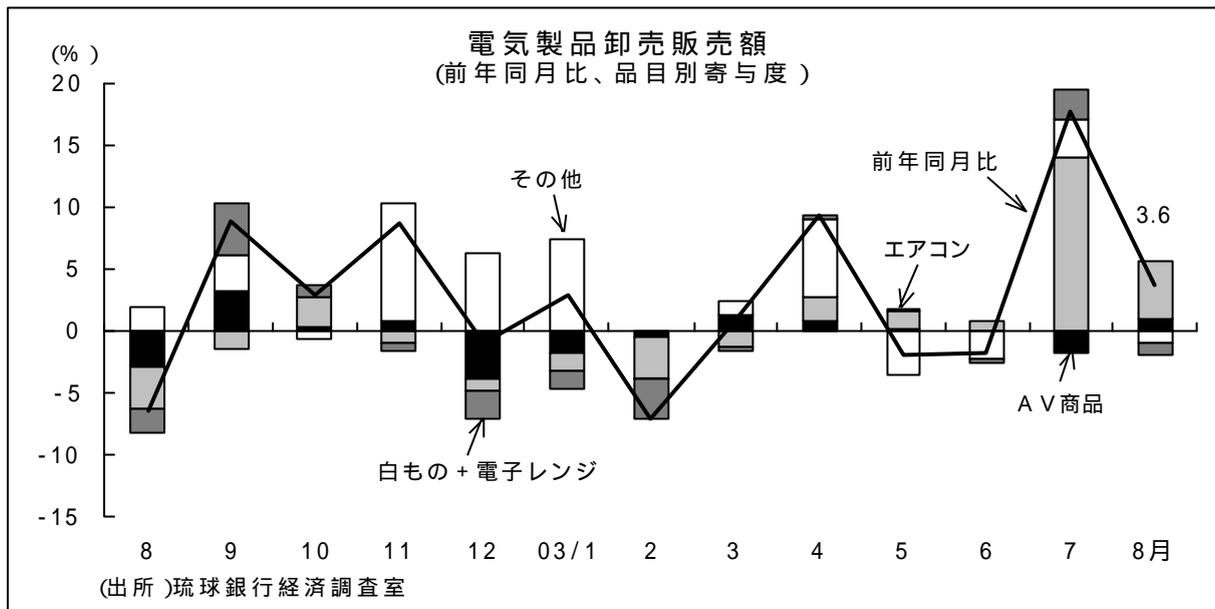
- ・ 新車販売台数は、2,553 台と前年同月比 2.3% の増加となり、2カ月連続で前年を上回った。小型乗用車は、タクシー緊急調整地域指定前の駆け込み需要により高水準となった前年を下回った。軽乗用車は引き続き好調に推移した。
- ・ 普通自動車（登録車）は、1,033 台（前年同月比 12.9% 減）で、うち普通乗用車は、160 台（同 3.0% 減）、小型乗用車は、739 台（同 15.3% 減）であった。軽自動車（届出車）は、1,500 台（同 16.4% 増）で、うち軽乗用車は、1,302 台（同 22.3% 増）となった。

(4) 中古自動車販売：3カ月ぶりに前年を下回る



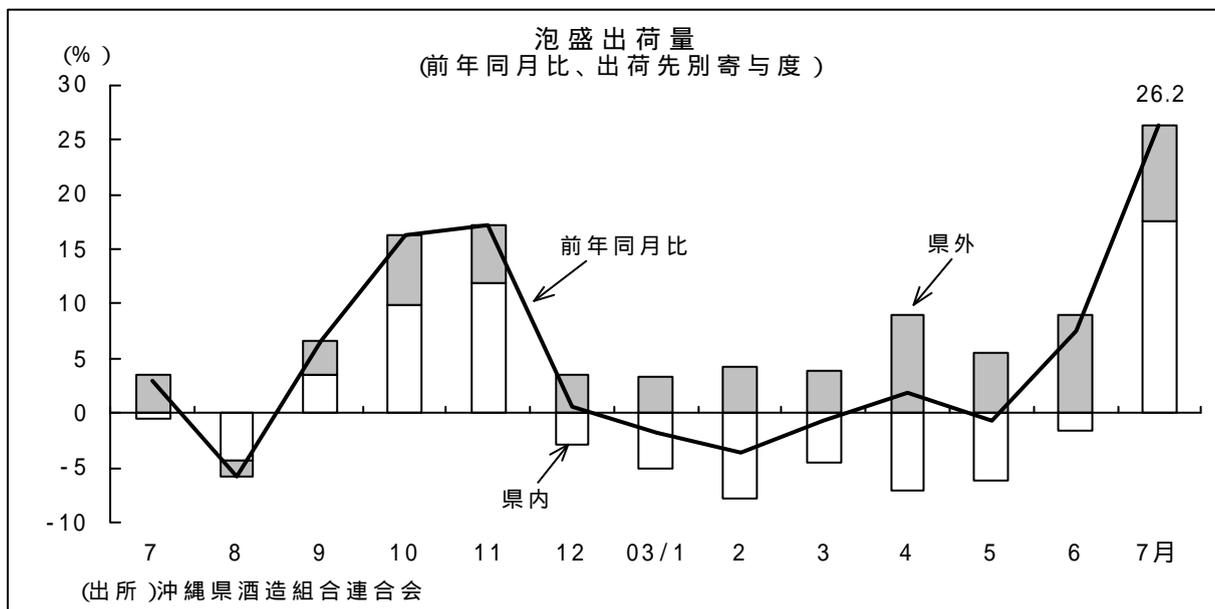
- ・ 中古自動車の登録状況（普通自動車および軽自動車の合計）は、前年同月比 11.5% 減となり 3カ月ぶりに減少した。

(5) 電気製品卸売販売額：2カ月連続で前年を上回る



- 電気製品卸売販売額は、前年同月比 3.6%増となり2カ月連続で前年を上回った。品目別にみると、猛暑効果の持続によりエアコン（同77.8%増）が引き続き好調に推移したほかオーディオ（同33.0%増）テレビ（同3.8%増）は前年を上回った。一方、洗濯機（同7.4%減）やビデオ（同5.3%減）、冷蔵庫（同0.6%減）は前年を下回った。

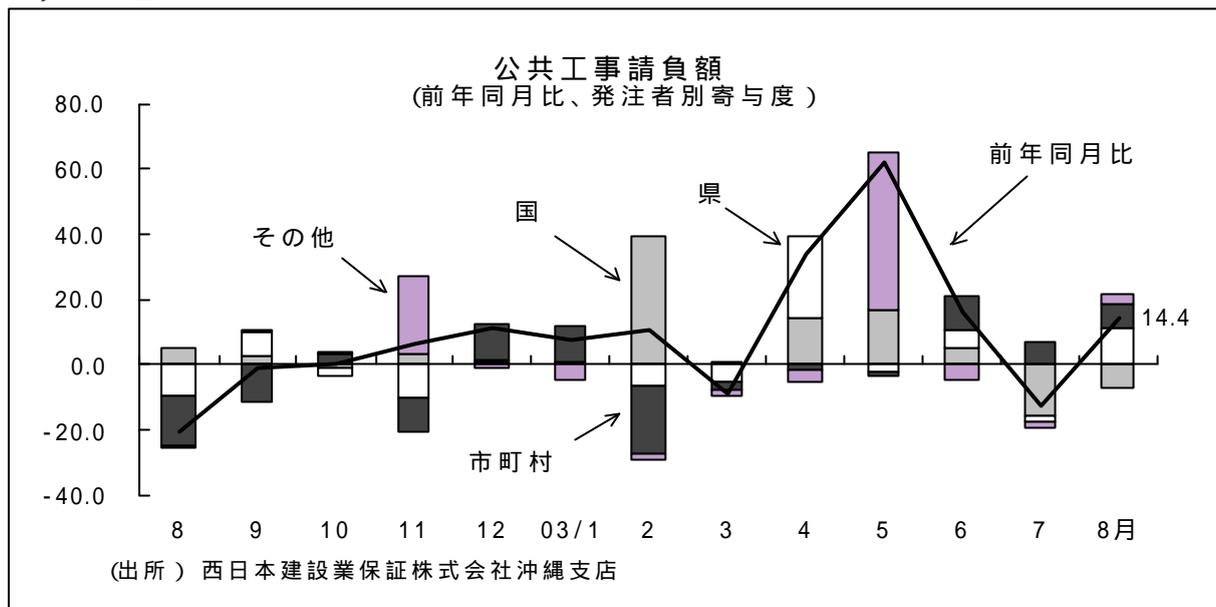
(6) 泡盛出荷量：県内、県外出荷ともに前年を大きく上回る



- 泡盛出荷量は、前年同月比 26.2%の増加となった。県外出荷量は同 59.0%増と大幅に増加した。県内出荷量も同 20.6%増と8カ月ぶりの増加となった。

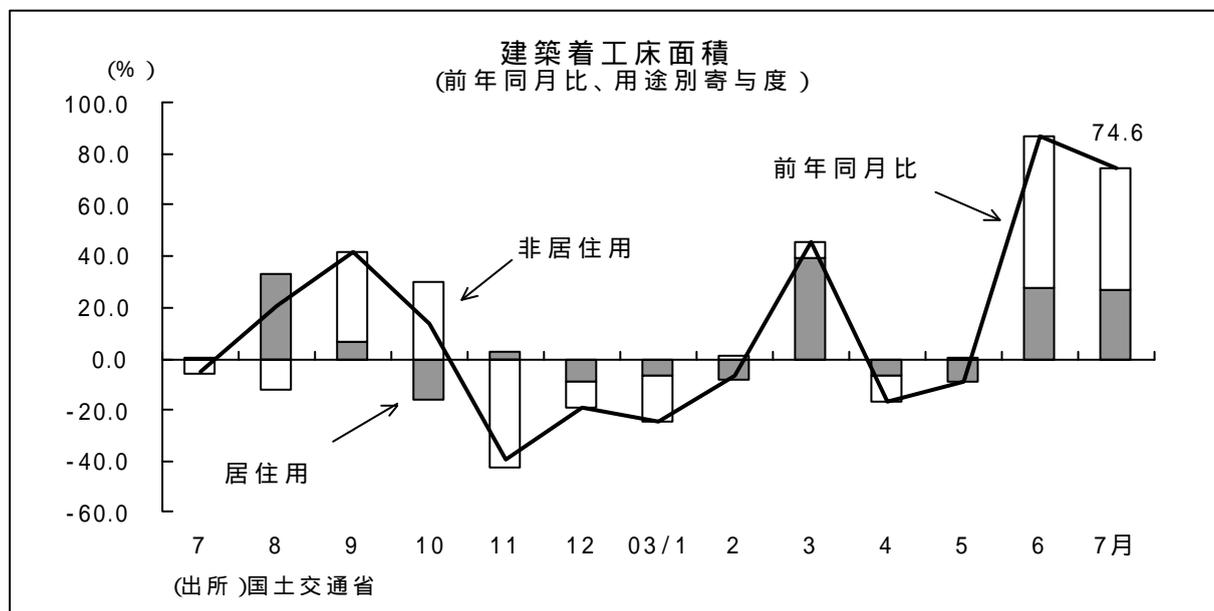
2. 建設関連

(1) 公共工事請負額：再び前年を上回る



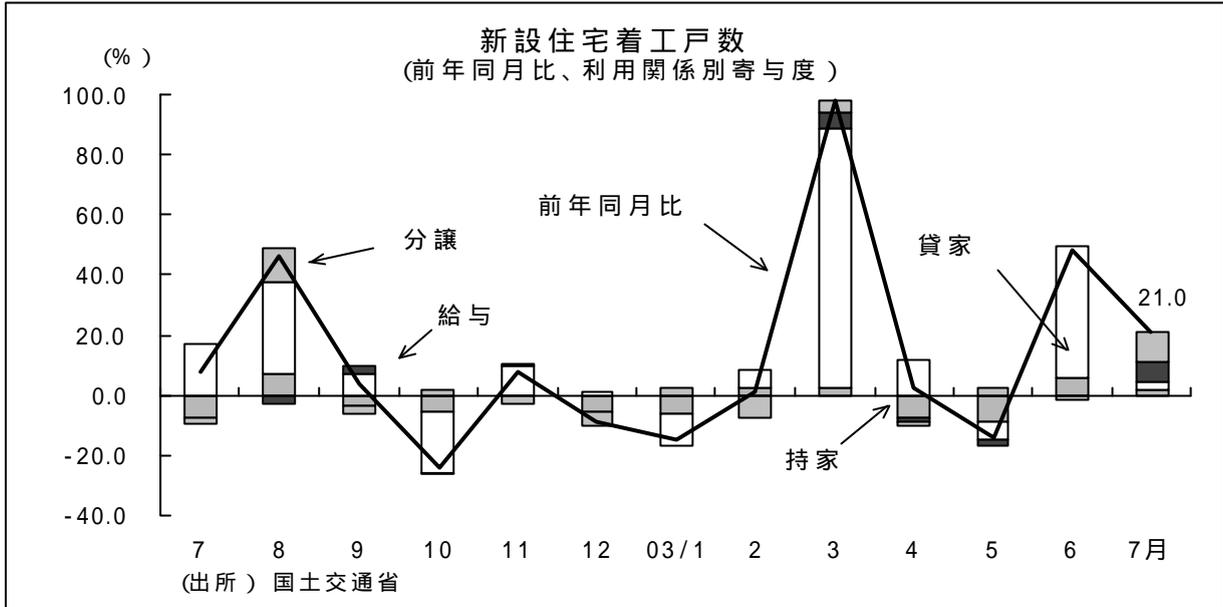
- 公共工事請負額は、339億75百万円で前年同月比14.4%増と再び前年を上回った。
- 発注者別では、「国」(同24.3%減)が減少したものの、「県」(同30.7%増)、「市町村」(同26.2%増)が増加した。
- 大型工事としては、若狭地区地盤改良工事や新石川浄水場建設工事等があった。

(2) 建築着工床面積：2カ月連続の大幅増



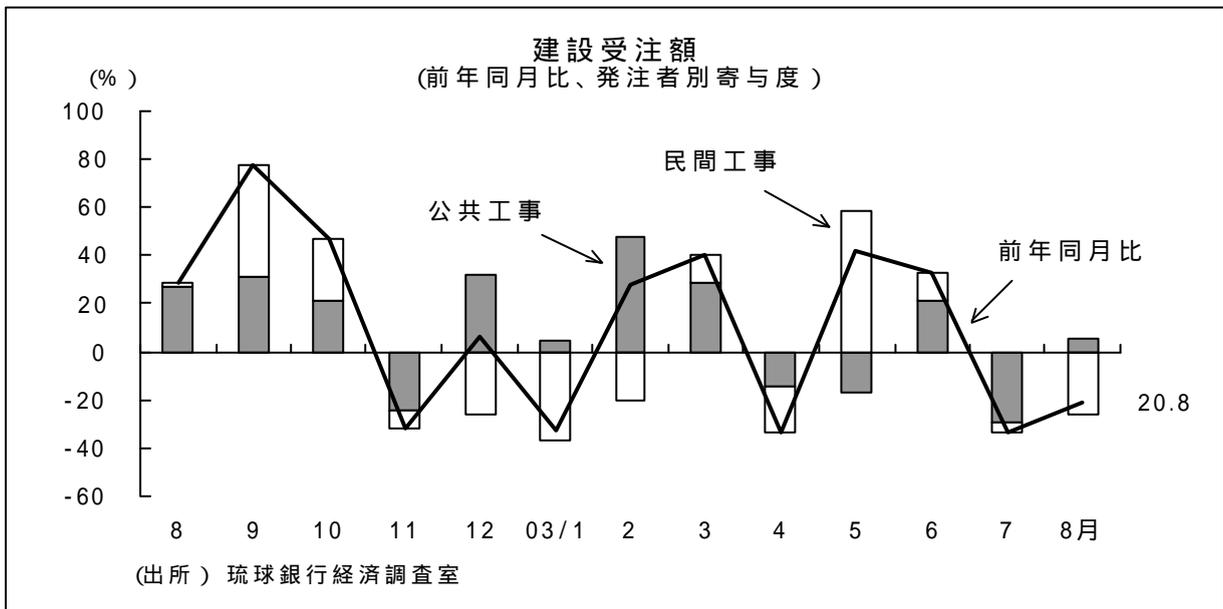
- 建築着工床面積(7月)は、22万521㎡で前年同月比74.6%増と2カ月連続の大幅増となった。
- 用途別では、「居住用」(同39.0%増)、「非居住用」(同151.7%増)とも高い伸びとなった。
- 建築着工床面積を用途別(大分類)にみると、居住専用(10万8,075㎡)が最も大きく、次いで飲食店・宿泊業用(4万521㎡)、居住産業併用(1万1,010㎡)、医療・福祉用(1万390㎡)等の順であった。

(3) 新設住宅着工戸数：2カ月連続で前年を上回る



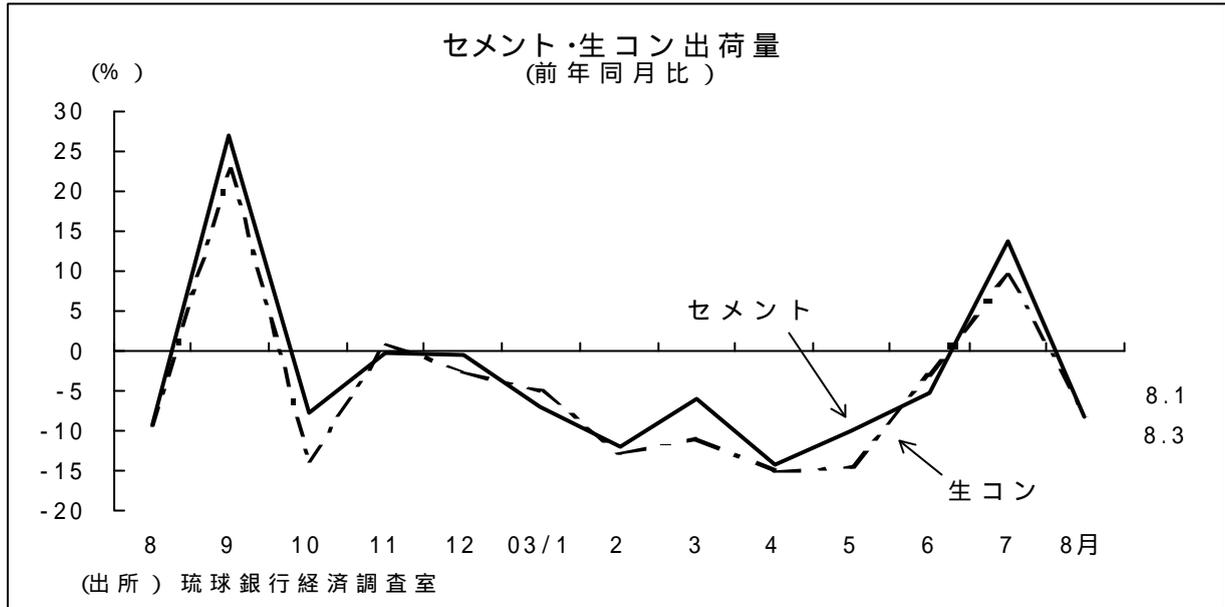
- ・ 新設住宅着工戸数（7月）は、1,239戸で前年同月比21.0%増と2カ月連続で前年を上回った。
- ・ 利用関係別では、前年が低水準であった分譲（同434.8%増）が大幅増となったほか、前年には皆無の給与住宅が70戸の着工となり、持家（同5.8%増）、貸家（同4.0%増）も2カ月連続で増加した。
- ・ 都市別（市部）では、糸満市（同43戸減）や具志川市（同41戸減）が減少したものの、浦添市（同177戸増）、石垣市（同61戸増）、名護市（同59戸増）が貸家を中心に増加した。

(4) 建設受注額：2カ月連続で前年を下回る



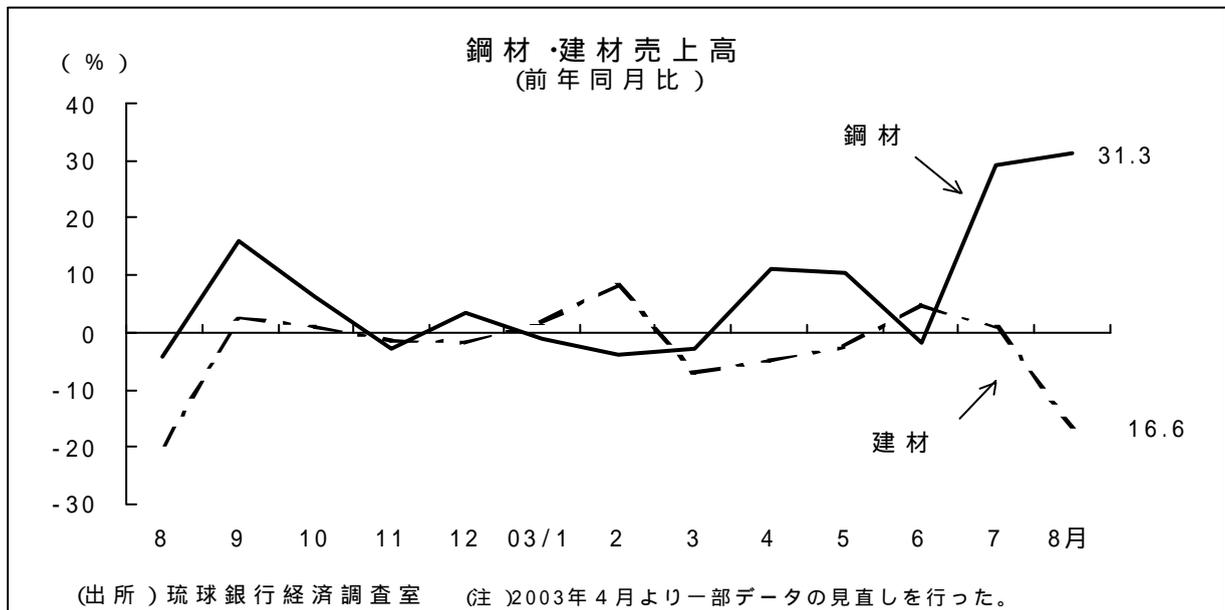
- ・ 建設受注額（調査先建設会社：20社）は、前年同月比20.8%減と2カ月連続で減少した。
- ・ 発注者別では、公共工事（同8.9%増）が増加したものの、民間工事（同63.5%減）が減少した。
- ・ 主な工事物件では、医療・介護施設や浄水場施設、基地関連工事等の受注があった。

(5) セメント・生コン：セメント・生コンともに前年を下回る



- ・ セメント出荷量は、6万6,457トンで前年同月比8.3%減となり再び前年を下回った。
- ・ 生コン出荷量は、15万472立方メートルで前年同月比8.1%減と再び前年を下回った。
- ・ 生コン出荷量を出荷先別にみると、公共工事向けは海事工事や橋梁工事、教育施設等を主体に増加したものの、民間工事向けは個人住宅や分譲マンション、医療関連施設等への出荷が前年を下回ったことから減少した。

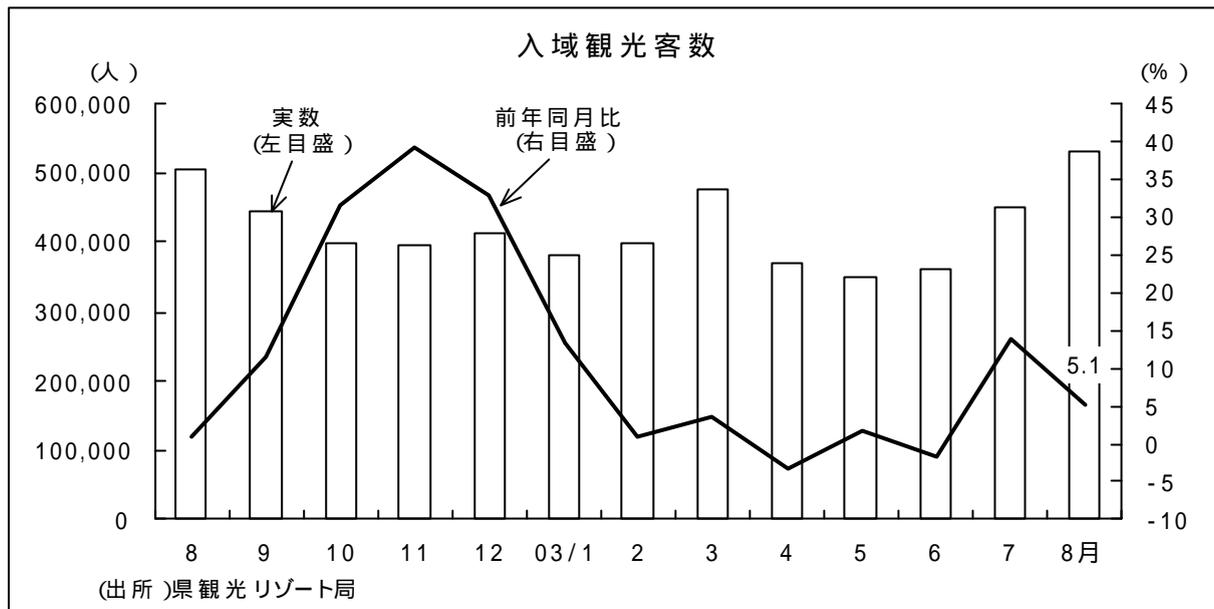
(6) 鋼材・建材：鋼材は大幅に増加し、建材は減少に転じる



- ・ 鋼材売上高は、前年同月比31.3%増と前年を大幅に上回った。市中価格が強含みで推移しているほか、出荷量も港湾関連工事や分譲マンション、教育施設、橋梁工事等に出荷がみられたことから高い伸びとなった。
- ・ 建材売上高は、前年同月比16.6%の減少となった。この2カ月間は持ち直しつつあったものの個人住宅向け出荷の低調さ等を映じて3カ月ぶりに減少に転じた。

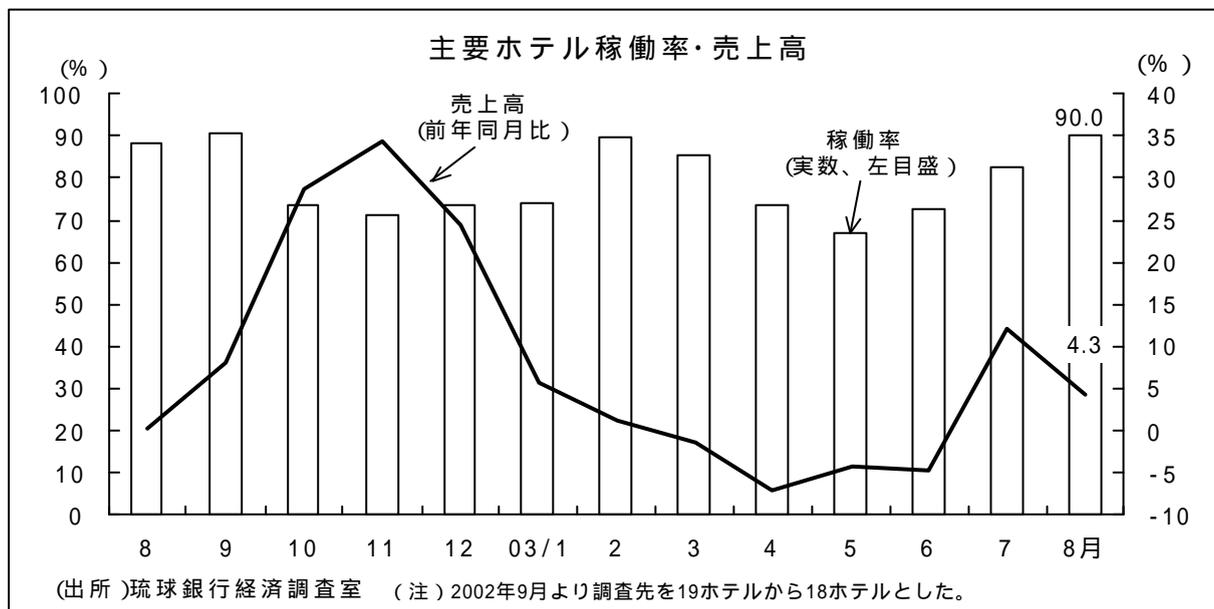
3. 観光関連

(1) 入域観光客数：国内客の伸びにより引き続き前年を上回る



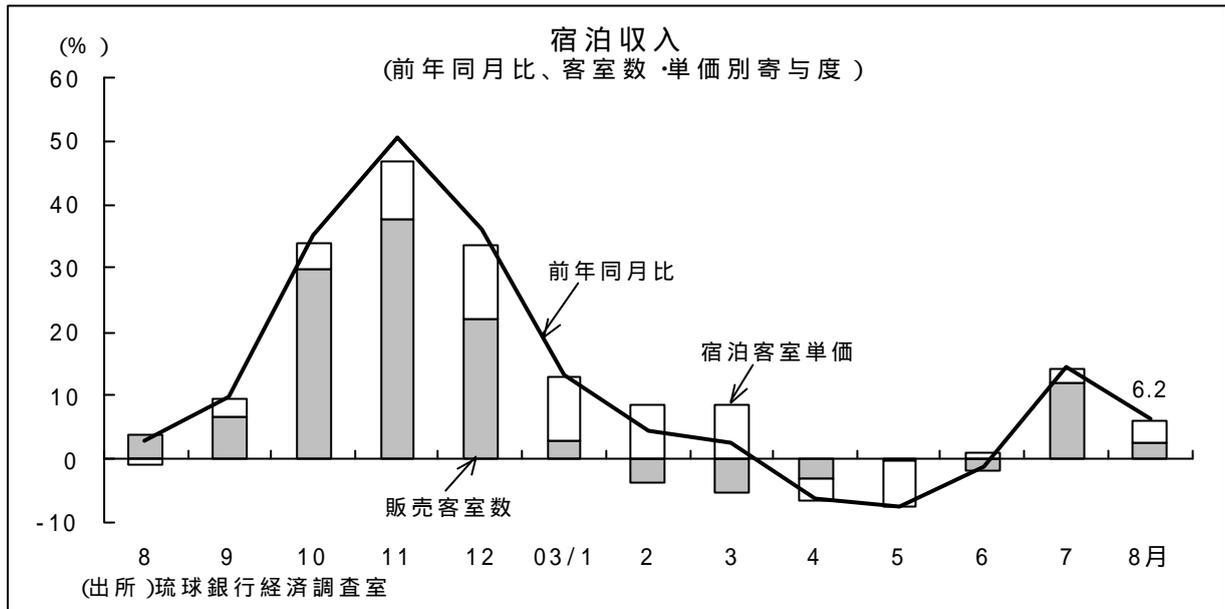
- 入域観光客数は、53万1,600人（前年同月比5.1%増）となり2カ月連続で前年を上回った。国内客（同5.9%増）は路線拡充やSARSによる海外旅行の切り換え需要などから好調に推移した。外国客（同15.1%減）は、航空路線の減少やクルーズ船の小型化などから減少を続けた。
- 9月20日までの国内航空入域客数をみると、前年同期比12.3%増と引き続き好調に推移している。

(2) 主要ホテル：稼働率、売上高とも前年を上回る



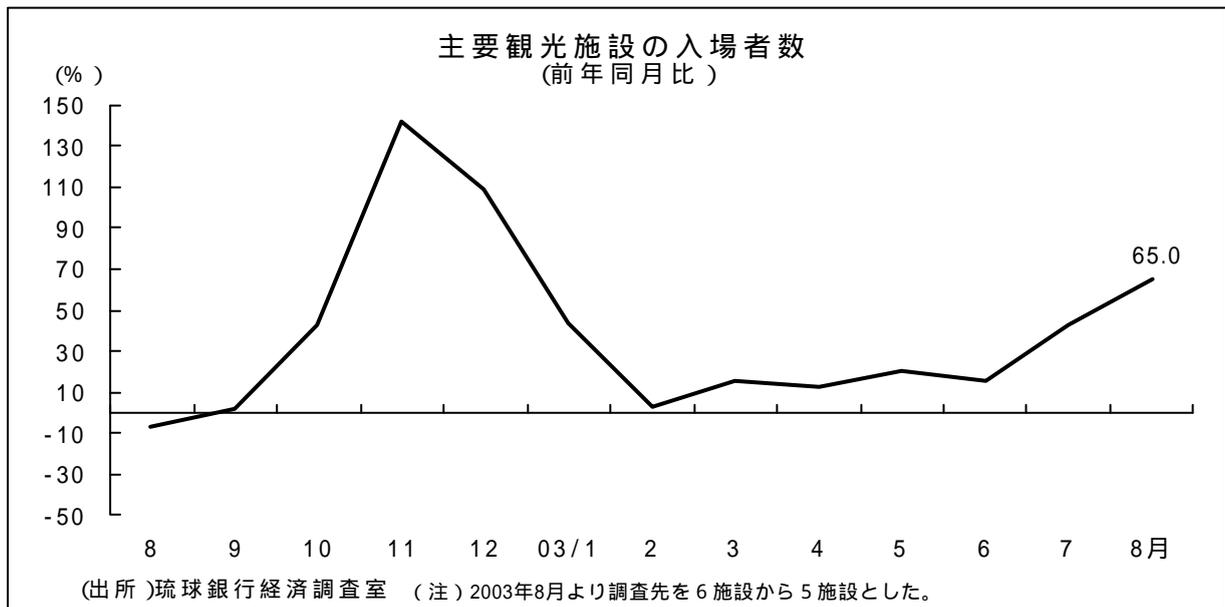
- 主要ホテルの客室稼働率は、90.0%と前年同月比1.7ポイント上昇した。売上高は4.3%の増加となった。海外からの振替え客やファミリー客などが増加した。
- 那覇市内大手ホテルの稼働率は、87.8%で同4.8ポイント上昇した。売上高は同6.7%の増加となった。
- リゾート型ホテルの稼働率は、91.4%で同0.3ポイント下落した。売上高は同3.8%の増加となった。

(3) 主要ホテルの宿泊収入：販売客室数、宿泊客室単価とも前年を上回る



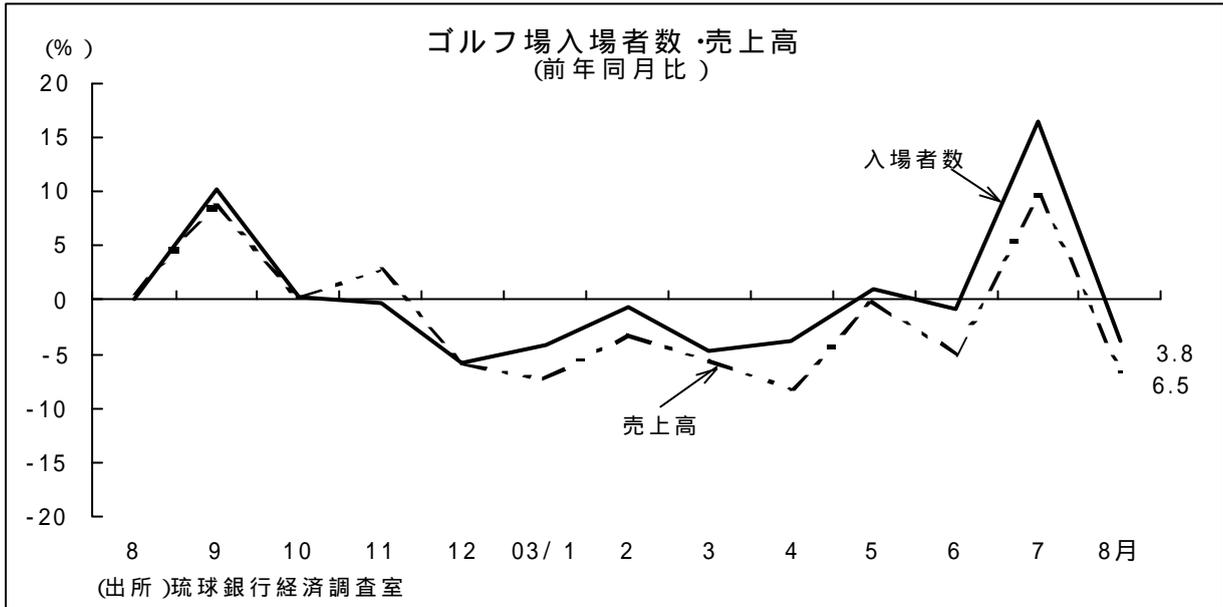
- ・ 主要ホテル売上高のうち宿泊収入は、販売客室数（数量要因）、宿泊客室単価（価格要因）とも2カ月連続で増加し、全体では前年同月比6.2%の伸びとなった。

(4) 主要観光施設入場者数：12カ月連続で前年を上回る



- ・ 主要観光施設の入場者数は、前年同月比65.0%増と新水族館の押し上げ効果が持続していることもあり12カ月連続の増加となった。

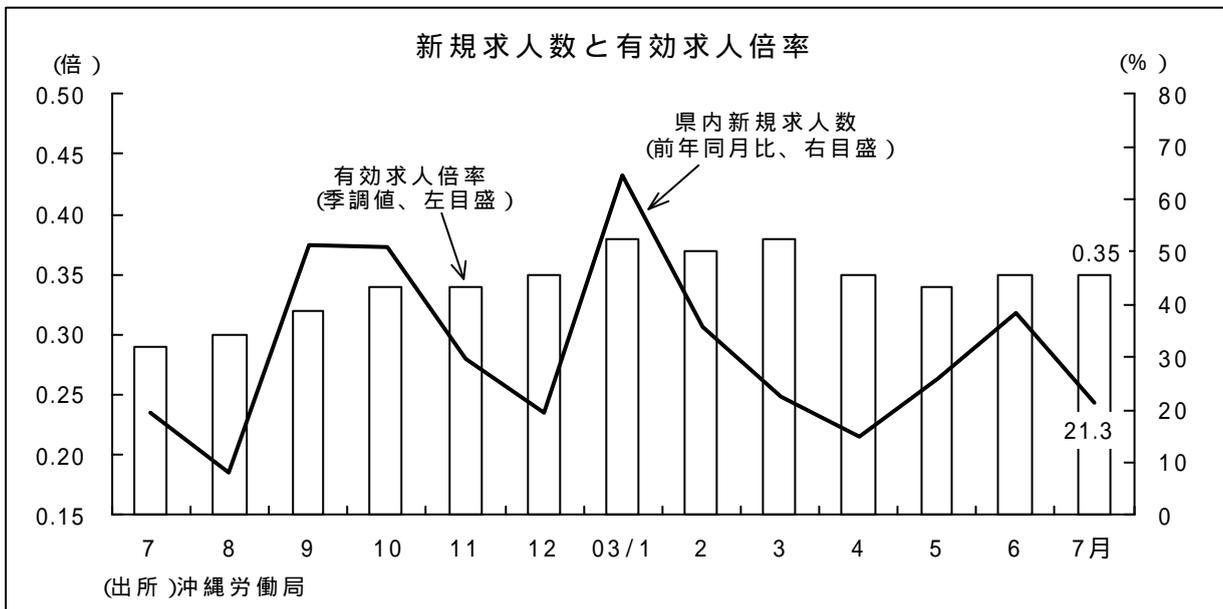
(5) 主要ゴルフ場稼働状況：入場者、売上高とも再び減少



- ・ 主要ゴルフ場の入場者数は、県外客は増加したものの県内客が台風の影響などにより減少したことから、全体では前年同月比3.8%減と再び減少した。売上高は同6.5%の減少となった。

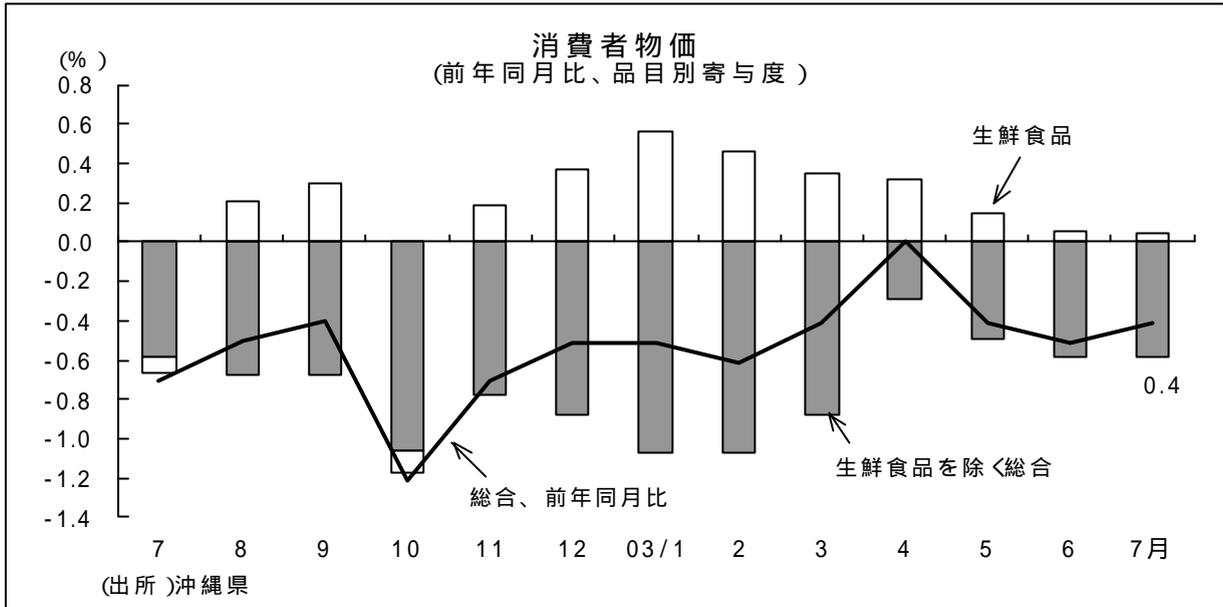
4. その他

(1) 雇用関連：新規求人数は1年1カ月連続で前年を上回る



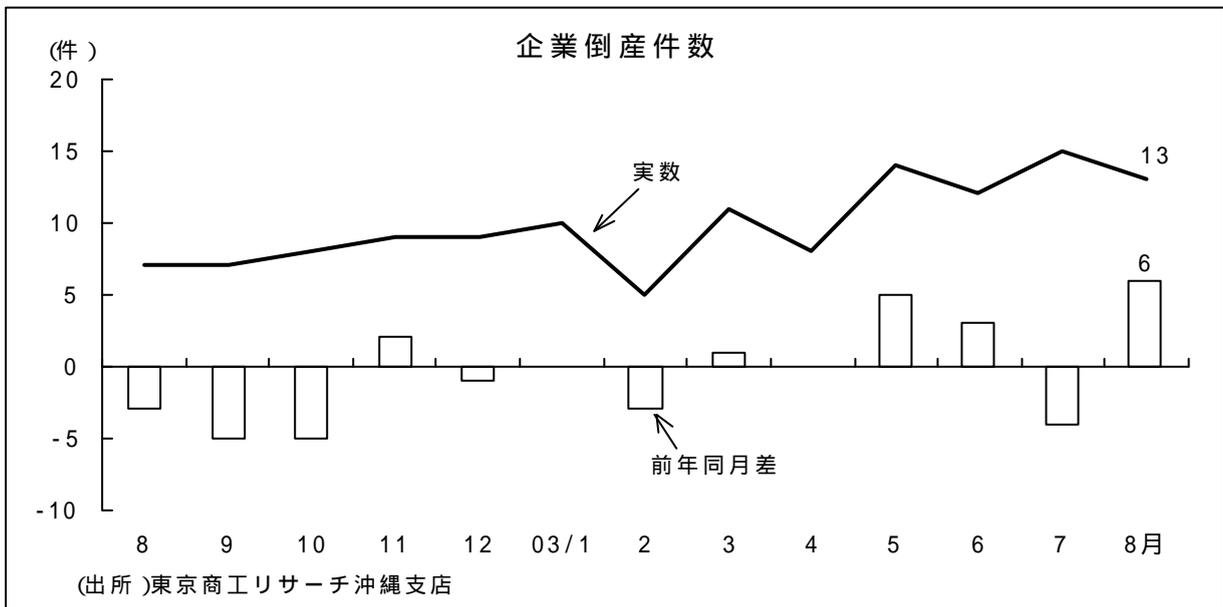
- ・ 有効求人倍率(7月)は、0.35倍となり、前月と同水準となった。新規求人数は、前年同月比21.3%増となり1年1カ月連続で前年を上回った。産業別にみると、運輸・通信業、卸・小売業、飲食店、サービス業などが増加した。
- ・ 労働力人口(7月)は、62万8千人で、前年同月比1.0%増加した。就業者数は58万3千人で、前年同月比2.5%の増加となった。完全失業者数は、4万6千人で、前年同月比11.5%の減少となった。完全失業率は7.3%で、前年同月より1.1ポイント改善した。

(2) 消費者物価：3カ月連続で前年を下回る



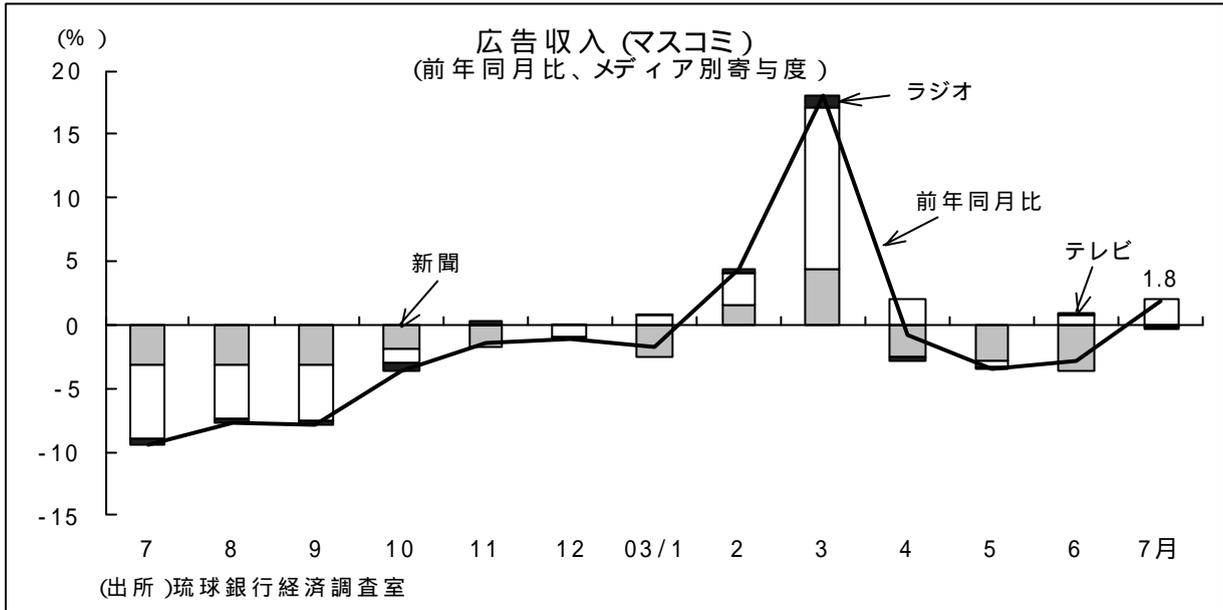
- ・ 消費者物価指数（7月、総合）は前年同月比 0.4% 下落した。4年連続で前年割れを続けた消費者物価は、4月にガソリンの値上がりなどから前年と同水準となったが、5月からは3カ月連続で前年を下回っている。
- ・ 品目別に前年同月の動きをみると、これまでの保健医療、教育に加え7月には交通通信および諸経費がプラスに転じたが、食料品がマイナス幅を広げた（6月 0.9% 7月 1.3%）。

(3) 企業倒産：件数、負債総額ともに前年を上回る



- ・ 倒産件数は13件となり、前年同月を6件上回った。業種別にみると、建設業が7件（前年同月差4件増）、サービス業4件（同3件増）、卸売業と小売業がそれぞれ1件となった。
- ・ 特別保証で借入れをした後に倒産した企業数は5件で、98年10月の実施以降の累計件数は312件となった。
- ・ 負債総額は負債額が132億1,400万円となり、10億円以上の大型倒産が1件発生した（前年は無し）ことから前年同月比795.9%と大幅に増加した。

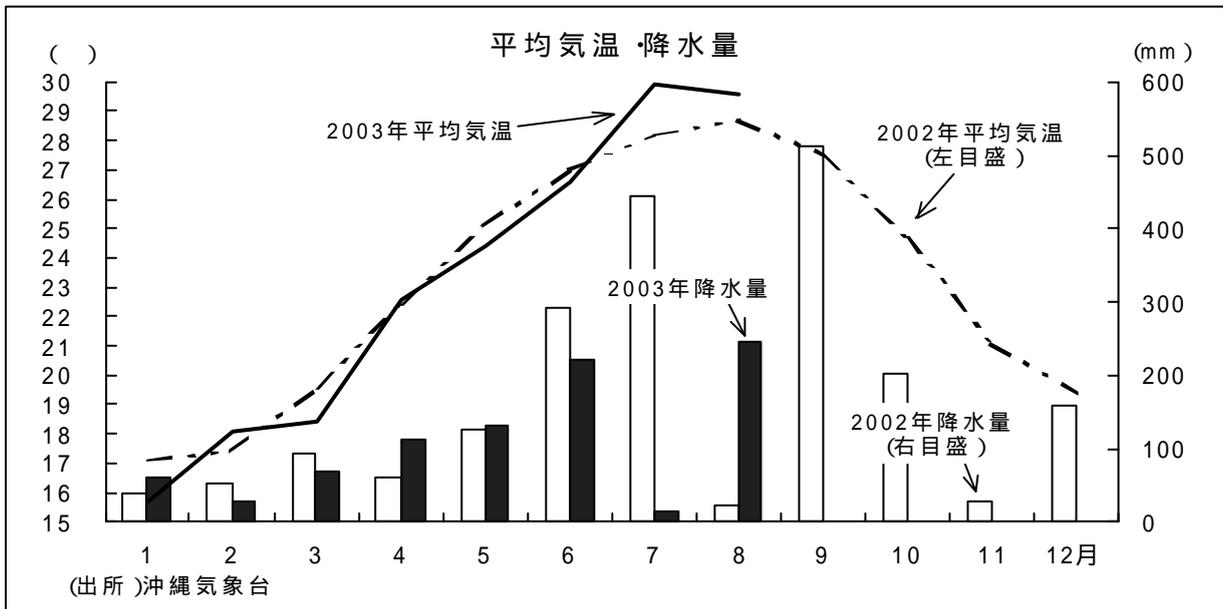
(4) 広告収入(マスコミ): 4カ月ぶりに前年を上回る



- 7月の広告収入(マスコミ)は、テレビが増加を続け、新聞が創刊記念による底上げで減少幅が縮小したことから、全体では1.8%増と4カ月ぶりに前年を上回った。

(参考)

気象(那覇)



- 8月の平均気温は29.6 と前年同月(28.7)より0.7度高くなった。降水量は台風の影響により245.0mmと前年同月(21.5mm)より大幅に増加した。